

# 平成30年度 西東京市公民館 事業評価表

【目的】西東京市公民館事業評価は、公民館が持つ機能の充実を目指し、事業の改善を図ることを目的とする。

※ 評価欄 A～D  
 A ..十分達成している  
 B ..概ね達成している  
 C ..今後の努力が必要  
 D ..達成できていない

平成30年度 西東京市公民館 事業方針		西東京市公民館事業評価の指標	
<p><b>【基本方針】</b>                      ・西東京市公民館は、生活課題や地域課題を見据え、地域づくりにつながる視点を持って幅広く学習機会を提供し、課題解決に取り組む住民の主体的な学びを支援する事業を実施していきます。                      ・人と人のつながりを大切にされた地域社会を創造していくために、住民が学び、活動、交流する場として、6館の公民館が十分に機能するように運営していきます。                      ・だれもが学び集うことができるように、障がい者や外国人などの社会的に制約を受けやすい人に配慮します。</p>	<p><b>【重点的な取り組み】</b>                      ■複雑化する地域課題の解決に向けた取り組み                      公民館は、さまざまな地域課題を市民が主体的に解決できるよう、地域の諸団体や行政の諸部門と課題を共有し、解決に向けた様々な連携や取り組みに努めます。                      ■共生社会の実現に向けた取り組み                      誰もが等しく尊厳を持ち生きることのできる社会の実現のために、共通認識を持つための機会を作り、障がいがある人、外国籍市民や性的少数者も視野に入れ、互いの存在を認め合う地域社会の実現のための学習機会の提供に努めます。                      ■市民の学び合いの広がりを支える取り組み                      現在、官民間問わずさまざまな学習の機会・場がある中、豊かな語り合い、支え合いのある地域社会につながるような学びの広がりがより継続的に進められるよう、公民館は支援します。</p>	<p><b>【重点施策】</b>                      ■地域と共同の事業実施                      地域の諸団体や行政の諸部門と連携し、住民のニーズに応じた事業を各館で実施します。                      ■障がいがある人を対象とした事業の充実                      障がい者学級を充実し、障がいの有無にかかわらずともに学ぶ事業を実施します。                      ■公民館事業・運営への市民参加の促進                      利用者同士、利用者との職員が相互に意見交換する機会を作り、事業の企画や館の運営への市民の参加を促します。</p>	<p>①「西東京市公民館の事業評価のあり方について」に対する答申(平成23年4月27日)に基づき、公民館事業全体の総合的な評価を行う。                      ②数値のみでは表せない視点を盛り込んだ実績も積極的に評価に取り入れる。                      ③評価内容は柔軟な評価を目標にして、定期的に見直しを行う。(見直しは検討会議を開催する)                      ④事業評価の内容を公開する。                      ⑤評価結果は今後の公民館事業計画及び運営に反映させる。                      ⑥持続可能な社会づくりの観点で評価する。                      ⑦市民本位の公民館経営における事業展開を適切に評価する。</p>

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
					評価	評価及び課題 [◇..評価 ◆..課題]	評価	評価及び課題 [◇..評価 ◆..課題]
(1)	個別事業	<p><b>【地域課題学習の提供・学習ニーズの反映】</b>                      地域や市民の実態、学習ニーズを反映した事業の実施に努めたか                      市民が参加しやすい工夫を凝らしたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題の取り上げ</li> <li>現代的課題の取り上げ</li> <li>市民の学習ニーズ反映の内容</li> <li>新たな利用者の開拓</li> <li>教育計画の反映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全事業数 96件</li> <li>・地域課題の取り上げ 21件( 21.9 %)</li> <li>・現代的課題の取り上げ 14件(14.6 %)</li> <li>・市民の学習ニーズ反映の内容 8件(8.3%)</li> <li>・新たな利用者の開拓 45件(46.9%)</li> <li>・教育計画の反映 50件(52.1%)</li> </ul>	B	◇総事業数は減少しているが、地域課題や現代的課題を学習する連続講座を積極的に実施した。 ◆教育計画を反映した事業が減少した。上位計画を受けた、公民館の取組み計画を作成する必要がある。	B	◇予算が減少している中、地域課題や現代的課題を積極的に取り上げ、市民の学習機会の提供ができた。 ◆一方で、中長期的な視点での事業運営が十分ではないため、中長期計画の策定が求められる。また、この実績指標では、市民が参加しやすい工夫については読み取ることができない。
		<p><b>【学習者の視点】</b>                      学習者の視点に立った、適切な事業実施ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートによるプログラム・講師・運営に対する学習者の満足度</li> </ul>	学習者の声 (A:満足 B:ほぼ満足 C:やや不満 D:不満) プログラムの満足度/AとBが合わせて 96.9% 講師の満足度/AとBが合わせて 97.8% 運営の満足度/AとBが合わせて 97.0%	A	◇アンケート結果および学習者の声から、事業・講座の満足度は高いと判断できる。 ◆引き続き、参加者の評価をきめ細かく分析し、適切な事業計画、事業実施に努める。	B	◇受講者の満足度は高い上、少数の不満な声についても、丁寧に意見を拾い上げ、運営できている。 ◆学習者が受講者のみなのか、市民全体なのかにより、捉え方が異なるため、定義の再確認が必要。また、講座の定員に対する充足率にも焦点を当てられると良い。なお、この4段階評価では、内容が適切に評価できるか疑問がある。
		<p><b>【プロセス重視の運営】</b>                      プロセス重視の事業企画・運営に努めたか                      市民の主体性を尊重し、自治能力の向上につながる学習の支援ができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備会</li> <li>実行委員会</li> <li>参加型の学習(グループワーク、ワークショップ等)の工夫</li> <li>相互学習</li> <li>学習成果の発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全事業数 96件</li> <li>・準備会 11件(11.5%)</li> <li>・実行委員会 8件(8.3%)</li> <li>・参加型の学習の講座実施数 51件(53.1%)</li> <li>・相互学習 16件(16.7%)</li> <li>・学習成果の発表 17件(17.7%)</li> </ul>	B	◇多くの講座でグループワーク、ワークショップ等の参加型学習が取り入れられており、学習者の主体性の尊重やプロセス重視の事業企画・運営に意識的に取り組んだ。 ◆準備会や実行委員会の参加者が固定的であり、新たな市民が参加できるような工夫を行う必要がある。	B	◇プロセスを重視する運営こそ、社会教育施設である公民館らしいアプローチであり、評価できる。 ◆この指標からは、自治能力の向上については読み取ることができない。また、館によって取り組み方に温度差があるように感じる。
		<p><b>【協働・連携、協力の視点】</b>                      協働や連携の視点で事業を企画・実施することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他課との協働・連携、協力</li> <li>他教育施設との協働・連携、協力</li> <li>他公共機関との協働・連携、協力</li> <li>地域NPO等との協働・連携、協力</li> <li>市民サークルとの協働・連携、協力</li> <li>地域の人材との協働・連携、協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全事業数 96件</li> <li>・協働・連携 24件(25%)</li> <li>・協力 28件(30.2%)</li> </ul>	B	◇地域交流事業や地域課題を取り上げた講座等について、公民館利用団体や地域住民、関係機関等との協働、連携、協力が進んでいる。 ◆6館の特性や地域性などを意識して、地域団体や学校との連携、協働のあり方を考えていく必要がある。	B	◇協働・連携や協力を通して、講座運営をすることにより、大きな効果を生み出している講座が多く存在した。引き続き、協働・連携・協力の視点を重視し、ダイナミックに取り組んでもらいたい。
		<p><b>【だれもが学べる学習機会の提供】</b>                      社会的に制約を受けやすい人への配慮も含め、幅広い対象に向けて、学習の機会を提供することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年対象・親子対象・高齢者対象・子育て中の女性対象・高齢者対象・障がい者対象・外国人対象などへ向けた事業実施</li> <li>学習支援保育事業(※1)の実施</li> </ul>	一般対象 39件/青少年対象 29件(小学生 15件、中学生 9件、15歳～18歳未満 3件、18歳～40歳未満 2件)/親子対象 8件/成人対象 29件/高齢者対象 5件/子育て中の女性対象(学習支援保育) 9件/子育て中の女性対象 1件/子育て中の保護者対象(学習支援保育) 件/子育て中の保護者対象 4件/男性対象 1件/女性対象(学習支援保育) 5件/女性対象 3件/勤労者対象 1件/障がい者対象 3件/外国人対象(学習支援保育) 1件/外国人対象 件/多世代交流 件/その他 件 /学習支援保育付き事業 9件	A	◇社会的に制約を受けやすい人に配慮しつつ、幅広い世代を対象に、さまざまな事業を積極的に実施した。 ◆実施内容、実施館等を全館で調整し、公民館として計画的に実施していく必要がある。	A	◇様々な立場の市民が参加することができるよう、幅広く講座が設定されたことは評価できる。 ◆だれもが学べるという視点からも、多世代と一緒に学べるしくみづくりに取り組み、6館でその情報を共有してもらいたい。また、男性を対象とした講座や学齢期の子供を持つ親世代への講座のニーズが高まっているため、そのような事業の実施を期待したい。また、対象別に参加した人数が見えてくると、次年度に繋がる振り返りができると考える。
<p><b>【学びの課題】</b>                      多様な地域課題や社会的課題に対して、解決に向けた学習の機会を提供することができたか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関する事業、環境に関する事業、人権、平和に関する事業、男女共同、生きがい、仲間づくりに関する事業等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 全事業数 96件</li> <li>子育て 14件/家庭教育 8件/食育 5件/健康 3件/男女共同参画 1件/女性の生き方 7件/高齢者問題 5件/高齢社会 2件/防災 8件/障がい者 3件/労働 3件/貧困問題 1件/人権 3件/平和 3件/環境 3件/国際理解 件/多文化共生 6件/まちづくり 13件/メディアリテラシー 1件/仲間づくり 32件/生きがいづくり 11件/その他 12件</li> </ul>	B	◇全館で多様な課題を取り上げた事業を積極的に実施した。 ◆専門員の得意分野による実施などに頼るところが多く、公民館としての計画的な取組みに欠ける。今後は、6館の特性や地域性などを意識して、地域課題等の把握を行い、全館で調整・連携のもとに事業を実施していく必要がある。	B	◇多岐にわたる地域課題や社会的課題を取り上げ、学習機会の提供ができた。引き続き、積極的に取り組んでもらいたい。 ◆一次評価にあるとおり、公民館としての計画的な取組に欠けているため、中長期計画を策定し、事業を運営していただきたい。また、西東京市では、「男女平等推進」という用語を使用しているため、統一が必要ではないか。		

	重点課題	重点課題に取り組んだか	1、複雑化する地域課題の解決に向けた取り組み 2、共生社会の実現に向けた取り組み	1、複雑化する地域課題の解決に向けた取り組み 10件 2、共生社会の実現に向けた取り組み 10件	B	◇地域防災や高齢社会、まちづくり等の課題を取り上げた事業の実施や、新たに、障がいのある方が参加できる事業を実施し、ともに学び、楽しむ機会を提供した。 ◆継続的に取り組む必要のある事業であるため、全館で実施内容の共有化を行うなど、計画的な取り組みが必要である。	C	◇他機関と協働・連携・協力しながら、多様な地域課題を取り上げることができた。 ◆障がいのある方が講座に参加できる環境は十分に保障されていない。また、広く市民に地域共生社会を啓発していく取組も十分ではない。さらに、重点課題に関しても、中長期視点が欠けているため、中長期視点に基づき、単年度の取組をしっかりと進めていく必要がある。
	重点施策	重点施策に取り組んだか	1、地域と共同の事業実施 2、障がいがある人を対象にした事業の充実 3、公民館事業・運営への市民参加の促進	1、地域と共同の事業実施 14件 2、障がいがある人を対象にした事業の充実 3件 3、公民館事業・運営への市民参加の促進 9件	A	◇重点施策に意識的に取り組んだ。特に、障がいがある人を対象とした事業については、障がい者学級のない館における継続的な取組の初年度として、障がいがある人もない人も一緒に参加できる連続講座を実施した。 ◆公民館事業・運営への市民参加の促進については、その方法について全館で共有化を図るとともに、新たな市民層の参加を促すような取組を進める必要がある。	B	◇障害者学級の無い館における継続的な取組の初年度として、一歩を踏み出したことは評価できる。 ◆引き続き、障がいのある方も公平に公民館を利用・活用することができるよう、6館全体での取組に繋げてもらいたい。また、障害者学級(あめんぼ・くるみ)の在り方は継続して検討し、よりよい運営ができるように期待したい。

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価		
					評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]	
(2)	施設管理	環境整備	【学習環境としての整備】 市民の学習権を保障する施設として、エコの観点に配慮しつつ、利用者が快適に使える環境整備を行う	・団体連絡箱の適切な提供 ・印刷機等の提供 ・ロビーの環境整備	・団体連絡箱利用団体数(6館合計) 415団体 * 団体連絡箱の総数(6館合計) 486 ・印刷機利用件数(6館合計) 2058件	A	◇団体連絡箱や印刷機の提供により、団体活動を支援した。団体連絡箱については、団体の利用希望をおおむね充足している。公民館の利用案内を作成し、新規登録団体へ配布した。また、公民館だより一面で公民館を紹介し、公民館の利用について周知に努めた。 ◆引き続き、施設環境整備に努める。	A	◇各館とも、それぞれロビーの活用・充実に向け、工夫を凝らし、ますます良くなっている。6館で共有しながら、さらに良いロビー環境の提供を期待したい。 ◆土日や夜間に利用した印刷機使用料の支払いについて、リースの更新時に向けて検討し、さらに使いやすい環境整備をお願いしたい。また、部屋の特例利用の周知が十分ではない。空調についても、環境に配慮しつつ、安全・快適に使用できるようにしてもらいたい。
		防災	【防災】 地域防災力の向上と防災を意識した施設管理に努める	・防災訓練の実施 ・防災対応マニュアルの作成 ・防災備品の管理 ・帰宅困難者一時滞在施設としての整備	・防災訓練の実施 8件 ・防災対応マニュアルの整備 ・防災備品の管理 ・帰宅困難者一時滞在施設開設マニュアルの作成	B	◇警備職員等も含め、全職員が防災無線を活用することができるように、全館合同の防災無線訓練を定期的に実施することとした。9月の台風で保谷駅前公民館で一時滞在施設を開設した。利用者はいなかったが、マニュアルが開設準備に活かされた。 ◆公民館、図書館全館が参加する合同の防災訓練を行う必要がある。	C	◇全館一斉の防災行政無線取扱訓練の実施など、一つずつ取組を進めていることは評価できる。 ◆火災発生時や大規模災害時に必要最低限の対応をしていくためには、引き続き市長部局や教育委員会とも連携し、マニュアルや訓練の見直しを図るとともに、一時滞在施設の対応が終了した後の対応に向けても検討をしていく必要がある。

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価		
					評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]	
(3)	窓口業務	学習相談	【学習情報整理】 学習情報の収集・整理・共有化を行い、市民の学習に繋がるような情報提供を行う	・団体一覧の更新(年1回) ・団体の登録の更新(5年に1回) ・各団体の館内掲示物の整理や保管 ・チラシ、会員募集等の随時整理	・団体の定期的な活動情報の更新(年1回) ・団体の登録内容の詳細な確認(H30年度実施) ・サークル紹介冊子の作成・配布(柳沢・芝久保・谷戸・ひばり) ・サークル紹介用ファイル設置(柳沢・田無・谷戸・保谷駅前)	A	◇団体登録の一斉更新の実施にあたり、活動内容をよりの確に把握できるように、団体の分類方法の見直しを行い、適切な団体情報の提供に努めた。団体登録の一斉更新については、公共施設予約管理システム更新と時期が重なったが、その周知とともに適切に実施した。 ◆新しい公共施設予約管理システム下では、団体ごとに団体登録更新手続きを行う年度が設定されることになったが、対象となる団体へ引き続きわかりやすい周知を行っていくこととする。	A	◇各館とも、システム更新の説明会は丁寧に行うことができた。 ◆団体登録更新時の住所提示に関する主旨が十分に周知されず、誤解が生じたこともあった。また、公民館登録条件の周知も十分ではないため、引き続き周知に努めてもらいたい。
		【窓口対応における学習支援】 市民の学習の質を高め、継続的なものにすることができるように学習相談を実施する	・窓口・電話による学習相談(サークル活動への参加に関する相談や受講相談等)や情報提供(公民館登録団体に関する情報等) ・学習活動を行う中で、障害になるような問題や悩みを傾聴とその解決方法の助言をする	・書面による公民館登録団体の紹介 232件	B	◇窓口及び電話で、市民の求めに応じて、サークル紹介冊子も活用しながら、団体情報の提供や学習相談を行った。 ◆会員の高齢化により、存続が困難になっている団体も多い。新規会員の加入や団体活動の継続を支援する必要がある。また、利用の手続きなども、高齢化がすすむなか、丁寧にわかりやすい説明対応など、意識的に進めていく必要がある。	C	◇職員による丁寧な窓口対応は評価できる。 ◆学習相談や情報提供に関する件数及び内容のデータを蓄積していく必要がある。また、窓口にはそのような機能があることを周知するとともに、さらなる学習情報の収集・提供が充実されていくことを期待する。さらに、窓口で適切に対応するためのスキル向上を目指すための取組も求められる。	

項目	評価区分	評価内容	実績指標	実績	公民館(1次)評価		公民館運営審議会(2次)評価	
					評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]	評価	評価及び課題 [◇・・評価 ◆・・課題]
(4) 長期的視点での人づくり	学習成果 単年度	【学習の継続と成果】 事業参加者の学習活動の総括・学習成果の発表・学習の継続を支援する	・記録誌、記念誌の発行 ・主催講座からサークル化した団体数	・サークルの立ち上げ 13団体 ・公民館保育室活動の記録誌発行 5冊(各館1冊) ・主催講座の記録誌発行 11冊 ・まつり、フェスティバル等地域交流事業記録誌発行(柳沢、田無、芝久保、谷戸) 4冊 ・周年事業記念誌発行 1冊(保谷駅前)	A	◇主催講座終了後、受講者が学習活動を継続していくことができるよう、自主サークル化の支援を行った。また、学習の再確認やその後の活動の支援につながるよう、記録誌作成等を積極的に行った。 ◆新しく発足したサークルの活動が安定するよう、引き続き支援に努めて行く。	A	◇学習者自身が記録誌・記念誌を作る過程はとても大切であり、それらの支援を積極的に行っていることが評価できる。 ◆記録誌・記念誌作成の意義を再確認し、作ることが目的とならないよう、発行に向けた支援を期待したい。
	学習成果 経年	【学びの還元】 公民館で長期的な活動を行う市民・団体を地域資源として活用するとともに、その学習成果の地域還元を支援する	・地域交流事業への参加支援 ・フェスティバル及びまつりの実施 ・公民館ロビーでの展示、発表 ・記録誌の活用 ・市民企画事業の実施(※2)	・地域交流事業 13件 ・フェスティバルの実施(柳沢、ひばりが丘、駅前) ・まつりの実施(田無、芝久保、谷戸) ・ロビーコンサートの実施(柳沢、田無、ひばりが丘) ・ロビーにおける市民団体による学習の成果発表数 65件 ・市民企画事業の実施 26件	B	◇学習成果の発表の場、地域交流の場として、全館で実行委員会方式の「まつり」「フェスティバル」等を実施している。市民企画事業については多くの団体から申請があり、自主グループによる学習の成果を市民に還元する取組みが進められていると考えられる。 ◆市民主体で運営される実行委員会方式の事業については、実行委員会の構成員の固定や高齢化が課題であり、今後の活動をどのようにつけていくかも含めて、支援する必要がある。	A	◇まつりやフェスティバル、ロビーの活用、市民企画事業など、いずれも積極的な取組であり評価したい。 ◆毎年、保育付きサークルが多数誕生しているが、これらと以前からあるサークルとの縦の繋がりがづくりの支援も必要ではないか。そうすることにより、先輩学習者との経験共有や相互学習に繋がると考える。 ※評価内容にある「活用」という表現は、「力を発揮できる」というような表現の方が適切であると考えられる。
	地域づくり	【市民参加】 市民本位の公民館運営の実現のために、館の運営及び事業の企画・運営への市民参加を促進する	・公民館運営審議会の開催(月1回) ・事業実施のための準備会開催 ・実行委員会方式による事業の実施 ・利用者懇談会の開催	・公民館運営審議会の開催 12回 ・事業実施のための準備会 11件 ・実行委員会方式による事業の実施 8件 ・全館で年2回の利用者懇談会を定期開催 ・対象者別利用者懇談会の開催(陶芸:柳沢・芝久保、実習室::田無)	B	◇利用者懇談会の実施や準備会の開催、実行委員会方式による事業の実施など、館の運営や事業の企画・運営への市民参加に努めた。また、利用者懇談会に講師を招き、公民館について学習する場を設けるなど工夫を凝らした。 ◆利用団体が抱える問題や各館の個別課題の把握に努め、課題解決が図れるような会の持ち方についても検討を行って行く必要がある。	B	◇利用者懇談会に多種多様な工夫を凝らし、利用者の声を拾い上げるとともに、繋がりがづくりや交流に発展しており、職員の努力を大いに評価したい。 ◆引き続き、事業実施のための準備会の活用を期待するとともに、前年度の講座参加者を中心とした準備会のみならず、公募型による準備会の開催などの工夫もあると良いのではないかと。
	重点課題	【届ける社会教育】 公民館の施設にとどまらず、市内全域で社会教育事業を実施することに努める	・他施設を利用した主催事業の実施	・他施設を利用した主催事業の実施 7件	B	◇児童館や、学校などを会場に実施することで公民館利用者以外の市民が参加しやすい取組みを行った。 ◆アウトリーチに向けた取組みは、まだまだ少ない。今後は、公民館が設置されていない地域での事業実施にむけて検討を進めて行く必要がある。	C	◇他施設を利用した7件の実施事例はとても素晴らしい取組であり、大いに評価できる。 ◆単に他施設を利用し、事業を実施するだけでなく、公民館や社会教育のPRも積極的に行ってもらいたい。ただし、届ける社会教育を実践するには、現職員体制が厳しすぎるため、改善に向けた早急な検討が必要。
	重点課題	【公民館だより】 公民館だよりを通して、市民に公民館や地域に関する情報を発信する。	・公民館だよりでの団体紹介 ・公民館だよりでの人物紹介 ・社会教育的な課題や情報の提供	・公民館だよりでの団体紹介 2件 ・公民館だよりでの人物紹介 11件 ・公民館だよりでの地域課題・地域情報等の取り上げ 10件	B	◇公民館事業の募集だけでなく講座の報告や地域情報を積極的に掲載し、市民交流の場となるような紙面づくりに努めた。 ◆西東京市の公民館だよりは、他市の公民館からの評価が高いものではあるが、毎月4ページ刷りの全戸配布は費用負担だけでなく、編集室の運営、校正作業等、担当職員の業務負担が非常に大きく、現在の職員体制を踏まえた検討が必要であると考えられる。	A	◇1面での特集記事は、公民館だよりを通じた届ける社会教育の実践に繋がっている。また月に1回の発行は市民にとって大切な財産である。 ◆月に1回の公民館だよりの発行を継続していくためには、現在、職員体制などに限界がある。公民館だよりの発行のみならず、全市民に社会教育を届け、活用してもらい、主体的な学びを保障していくため、体制ややり方の検討が急務である。
	重点課題	重点課題に取り組んだか	3、市民の学び合いの広がりを支える取組み	・市民企画事業の実施 26件	A	◇市民企画事業について、利用団体の理解・協力を得て、新しく発足した団体やこの制度を初めて利用する団体が優先的に実施できるよう調整を図った。 ◆市民企画事業について、複数の団体が協力して同じテーマに取組むなど、関係形成を促進したり、新しい団体の育成支援につなげるよう、支援のあり方を検討していく必要がある。	C	◇市民が主体的に企画・運営し、学びの機会を広く提供しながら学習することのできる市民企画事業の意義は大きい。 ◆市民企画事業に関する周知や多くの団体による活用には課題もあり、全館での連携体制も不十分である。そのためには、当事業の意義を6館全体で再度共有し、市民の学び合いの広がりを支える取組として充実させてもらいたい。
	重点施策	重点施策に取り組んだか	1、地域と共同の事業実施 3、公民館事業・運営への市民参加の促進	・地域交流事業 13件 ・公民館運営審議会の開催 12回 ・事業実施のための準備会 11件 ・実行委員会方式による事業の実施 8件 ・全館で年2回の利用者懇談会を定期開催 ・対象者別利用者懇談会の開催(陶芸:柳沢・芝久保、実習室::田無)	B	◇公民館利用団体や地域団体、関係機関と協力、連携、協働して、地域交流事業等を実施した。また、準備会の開催や実行委員会方式による事業の実施等により事業の企画・運営への市民参加を図るとともに、公民館の運営への市民参加を保障するために利用者懇談会の充実に取り組んだ。 ◆地域との共同の事業実施においては、6館の特性や地域性などを意識して、地域団体や学校との連携、協働のあり方を考えていく必要がある。また、実行委員会等については、メンバーの固定化や高齢化などの課題に対して、対応を検討して行く必要がある。	C	◇まつりやフェスティバル等、長期的視点での人づくりに向けて、まずは公民館に来てもらう取組に対する努力は全館で行われており、評価できる。 ◆利用者懇談会の運営に関しての工夫は重ねられているが、長期的視点でのひとつりに繋がるといえる取組が十分ではない。市民誰もが気軽に参加し、情報交換や意見交換のできる公民館利用を期待したい。

■※1. 学習支援保育とは…乳幼児を育てている市民に対して、多様な学習機会を保障し、出会いと学びあいの機会を生み出すような公民館の公費保育制度です。親子の学びと成長を継続的に支え、学びの成果を地域へ発信・還元できるように支援します。

■※2. 市民企画事業とは…市内の自主グループが企画した事業を一定の審査の上、公民館事業として実施するものです。自主グループが日頃の活動で培った知恵やノウハウを生かして市民にさまざまな学習機会を提供し、地域を豊かにすることが目的です。